

「地域子育て支援拠点研修事業」 <東京開催>

中堅支援者向け研修

見つめなおそう！地域の子育て支援拠点となるために～今、リーダーに求められる力～

<開催趣旨>

平成 19 年度より、つどいの広場事業、地域子育て支援センター事業を統合し、児童館などのスペースも活用しながら、地域子育て支援拠点事業(ひろば型、センター型、児童館型)が新たに再編されました。そこで、行政とともに地域における子育て支援拠点間のネットワークを図りながら、地域子育て支援拠点の意義と役割を検証します。また、拠点スタッフ一人ひとりが日頃の活動を振り返り、見識を深め、スキルアップに寄与することを目的とします。

<プログラム趣旨>

平成14年度から始まった「つどいの広場事業」が平成 19 年度より、「地域子育て支援拠点事業」として再編され、開設初期の課題とは異なる中堅支援者向けの研修が求められる段階になってきました。そこで、これまで地域子育て支援の実践者として経験を積んでこられた方々や、地域子育て支援拠点の施設長、責任者を対象に、基礎的な知識を踏まえた上での専門研修を実施します。拠点スタッフ一人ひとりがこれまでの活動を振り返り、専門的な見識を深め、より高いスキルを身に付けることを目的とします。

【開催概要】:平成21年11月22日(土)10:00～16:30

- 会場:武蔵大学(練馬区豊玉上1-26-1)
- 主催:財団法人こども未来財団・NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会
- 後援:厚生労働省・(社福)全国社会福祉協議会・東京都・練馬区
- 協力:地域子育て支援拠点研修事業「東京開催」(中堅支援者向け研修)実行委員会・NPO 法人手をつなご
- 参加人員:274名(男性:19名 女性:255名)

<開会あいさつ>



総合司会
練馬ふくしの輪
代表土肥梨花さん



主催者あいさつ
こども未来財団
池野周平さん



実行委員長あいさつ
NPO 法人手をつなご
理事長千葉勝恵さん



来賓あいさつ
みずべの会代表
新澤誠治さん

●プログラム1 基調報告 「地域子育て支援拠点事業の展望」

厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課 少子化対策企画室 朝川知昭さん

地域子育て支援事業の法的位置づけ、児童育成事業の動向、ガイドラインについて等、たくさんの資料を示しながら説明いただきました。政権交代で浮上している国の動向・状況について新しい情報を得ようと固唾をのんで聞き入る参加者でした。3年の期限付き「安心こども基金」があまり使われていない現状も話されました。



朝川知昭さん

●プログラム2 基調講演 「ともに育てよう子どものしあわせ」

講師 草間吉夫さん 茨城県高萩市長

生後3日目から過ごした乳児院にはじまり、児童養護施設での成育歴を赤裸々に語られました。その経験と良き師との出会いから、大きな愛情と教えを受け、大学院卒業後は児童福祉施設勤務を経て、市長選に 39 才で当選。著書「ひとりぼっちのわたしが市長になった」(講談社)を出版。その本の紹介も取り入れながら、海外の福祉施設などの視察や研究から新しい福祉のあり方を話されました。野外キャンプや農業体験も重要と話され、人は愛されて育つことは、愛することもできる。愛されて育つと、愛を受ける受信機ができる。次は発信器となれ。利用者に対しての発信器であるスタッフは、人間性、価値、知識、技術といった資質を持つことが望ましいとも。夢を持って邁進し、未来を切り開こうとするお話は、あっという間に時間が過ぎましたが、最後にこども用リサイクルショップやフリーマーケットの開設まで提案され、力強くも、明るくユーモアを交えながらのご講演は大きな拍手で終わりました。



茨城県高萩市長
草間吉夫 さん



●プログラム3 プレトーク「各分科会の概要を知り、全容を共有する～中堅スタッフとしての意義と課題」

コーディネーター 奥山千鶴子さん NPO 法人びーのびーの 理事長
渡辺顕一郎さん 日本福祉大学教授
大屋幸恵さん 武蔵大学教授
新澤拓治さん 社会福祉法人雲柱社施設長



コーディネーター奥山千鶴子さん



左から奥山さん・渡辺さん・大屋さん・新澤さん

6分科会のうち、3人の分科会講師に登壇を願い、分科会の概略を皆さんに伝え共有していただく企画しました。分科会の個々の受け止め方を大事にするために、最後の全体会は設けず、午後の分科会で十分に語り合い、学び合い、次につなげる研修結果を得ていただくこと意図しました。プレトークの話を聞き、他の分科会へ興味を抱かれた方も多く、皆さんの学びへの意欲の高さを感じました。

●プログラム4 分科会

<第1分科会>「拠点責任者および施設長の役割を改めてとらえなおす」

～語り合おう、学び合おう責任者としてのあり方～

コーディネーター:武田信子さん 武蔵大学 教授
新澤拓治さん 社会福祉法人雲柱社 施設長
ファシリテーター:丹羽洋子さん 育児文化研究所 所長
森木美佐子さん NPO 法人ファミリーセンター東京ベーター 代表
土屋美恵子さん NPO 法人保育サービスひまわりママ 元理長

武田先生を中心として、新澤先生、ファシリテーターの諸先生方もワークショップに加わり、共に語り合い、考え合う、活気のある3時間となりました。最初に「今回は、“こんな事を教えてもらった”というよりも“鬱々”として帰ることになるかも知れません。それでヨシ！と考えています。」という武田先生のお言葉がありました。

『リーダーは自分で考えて、メンバーが何を考えているのか聞いて、一緒にやっていくこと。チームをどう作るのか、コアのメンバーと外側のメンバーをどうつくるかを工夫すること。それができないと、チームリーダー・コミュニティー・オーガナイザーは難しい。』と、資料の冒頭にありました。

全体を通してワークショップ形式で、8グループに分かれ「組織のリーダーとしての活動に関わるコンピテンシー」を4つの視点から考え語り合いました。

- ◆視点1:子育て支援の場はどのような場であると親子にとっていいのか？では自らが3歳児に戻り“幼少期、大人にどうして欲しかった？”という原点から、子育て支援とは何か、を見直しました。
- ◆視点2:地域の子育て環境を整えていくのが拠点の目的だとしたら、行政や周囲の資源とどういう関係を作っていくことが求められるか？では、リーダーとしてどんなことができるのか？また、役割は？といったことについて投げかけられました。
- ◆視点3:地域全体を見直す。では、各自、自分の拠点の地図を持参し、地域の適切な資源を知り、地元の特徴をグループ内で説明しました。
- ◆視点4:メンバーとの関係を築く。では、地域で本当に必要とされているかどうか考えられるか、誰からも批判されなくなったら要注意等、リーダーとしてどうあるべきかという課題を与えられました。武田先生はワークの中で自然にファシリテーションの技術に触れられるようみんなを同時に静かにさせる方法を見せたり、自分の立ち位置の傾向を認識しながらグループワークに参加するよう促したり、決まった時間内に話すように仕組んだりして、様々な実践的要素を盛り込んでくださいました。最後に、新澤先生が「早く帰って自分たちのスタッフと話がしたいと思いました。」と感想を述べられました。参加者のリーダーの方々も同じ思いで拠点へと戻られたのではないのでしょうか。



コーディネーター
武田信子さん・新澤拓治さん

ファシリテーター
左から丹羽洋子さん・森木美佐子さん・土屋美恵子さん

<第2分科会>「集うことを支えるために」

講 師:関西学院大学 教育学部 専任講師 橋本 真紀 さん

コーディネーター:特定非営利活動法人手をつなご 理事長 千葉 勝恵 さん

「集うことを支える」ことは、地域子育て支援拠点(ひろば)の核になる部分であることを理解し、その具体的な援助を理論や事例から橋本真紀先生にお話いただきました。

はじめに、他者と関わりながら子育てをすることがなぜ必要なのか、ひろばでなぜ利用者同士の関わり合いを支える必要があるのかを共通理解としてお話しいただき、初めて子育てをする人がひろばで周りの子育てを見ることにより、自分の子育てがどんな状態かを知り、子育てに対する「かげん」を理解し、自分の子育てを相対化できること、それによって、同じ立場からの共感や支え合いが得られるということ、単にひろばという空間を提供するだけでなく親同士の関係を支えることが重要だということをお話されました。

さらには、子育てひろばの支援者の役割についても説明いただきました。

1. 集いやすい場や環境を作る 2. 来る人を受け入れる 3. 関係を作る ことが挙げられ、「受け入れ」の留意点として、「支援者が何かを一緒にする」のではなく「一緒にいる」こと。その人なりの立場や親としての判断を尊重することが重要。これらの役割がしっかりできていれば、集った親子がひろばの中で各々の能力に気づき、それを発揮し自ら参加するようになります。その結果、人と人がつながりを持つようになり、地域の中でも人とつながりが出来るようになるのです。

次に、集団の援助方法などについて具体的にお話いただきました。集団は、集まる→参加する→ぶつかり合う→ともに支えあう→解散 という「発達」をしていくものと

理解することが大切です。ぶつかり合いなどがあつた場合、来ている人たちの関係がどんな段階かを把握した上で、その人がどうしたいかを尊重することが重要とのこと。つながることを支える具体的方法としては、1. 個別のニーズをしっかり把握する 2. 共通点からつないでいく 3. モノやコトでつないでいく の3点が挙げられ、ひろばでは人がつながるきっかけを提供していくことが大切です。利用者同士の関係を援助する留意点として、支援者は場の全体の中でどこに力を添えればよいか判断し、心地よい場を作るよう心がける必要があると話されました。

分科会終盤では、実際ひろばで起きたトラブルの事例を挙げ、4~5人のグループで問題点などを話し合い様々な意見が発表された後、コーディネーターの千葉さんから、ひろばでは、親(状況=事例では産後鬱の時期)の立場に立ってあげなくてはいけない場合と子どもの立場に立たなければいけない場合もあり、支援者がそれぞれの気持ちに寄り添ってあげることが大切ということ。また事例の後日談として、ひろば内で解決できなくても地域の現状が話され、先生から、地域という範囲で見ることができているということはずいぶんすごいですねと助言がありました。

ひろばは気軽に安心して利用できる場、受け入れられる場、つながりたい人がつながれる場であるということ学び、支援者としての役割を再確認する分科会となりました。



橋本 真紀さん

<第3分科会>「心の問題を抱える親への対応」

講 師 :杉山恵理子さん 明治学院大学 教授

コーディネーター :山田智子さん NPO 法人子育て応援かざぐるま 代表理事



講師

杉山恵理子さん(左)

コーディネーター

山田智子さん(右)



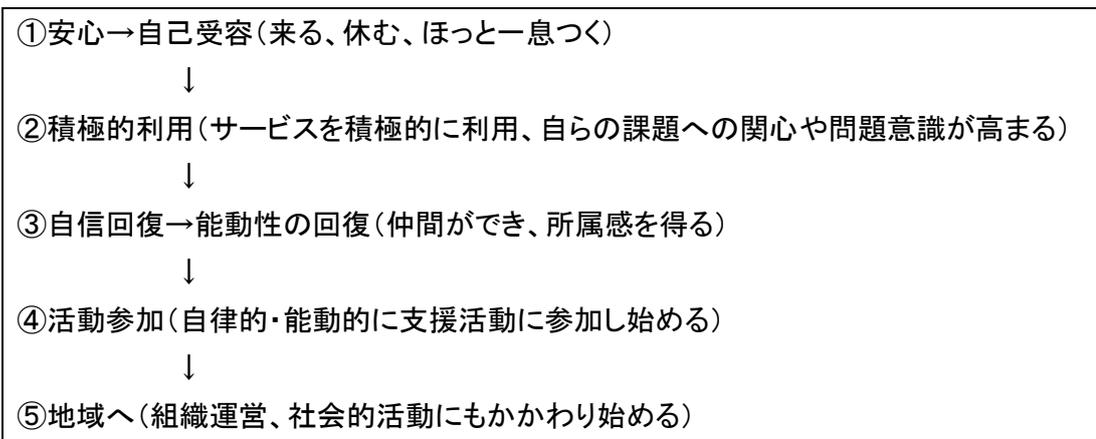
第3分科会は、親の多くが経験する子育ての悩みや不安を超えて、産後うつや統合失調症など、心のバランスを崩している親にかかわる際のメンタルアプローチについて学ぶという趣旨のもと、杉山先生の講義と参加者のディスカッションで進められました。

杉山先生は、わが国は少子高齢化と社会生活環境の急激な変化に伴い、日常生活のストレスが増加し国民の心の健康度は低下の一途を辿っていること、身近なところで起こっているいじめ、引きこもり、虐待、自殺等の背景として地域のつながりの希薄化が原因となっていることを取り上げ、“地域のつながり”の増加が精神的健康度を高めること、さらに子育てひろばが地域の拠点となつてつながりを増加させることは、予防としても、介入としても意義が高いことをお話されました。

子育てひろばは地域の中で一番敷居が低く行きやすい場であるので、心の問題を抱える親を決して拒否することなく、まずは子どもをキーポイントに、その人自身が持っている健康さを安心して発揮できる場所にしていくこと、スタッフはその人の不安や悩みを取り除いてあげるのではなく、一緒に悩み、その人が「この子の子育ては私がするしかないんだ！」と親としての苦勞をしっかりとできるように、先の見通しを持って支えることが大切ということです。

具体的には、その人ががんばろうとしていることとうまくいかないと思っていることの両方を認めて寄り添うこと、母と子それぞれができているところをほめることが大切であり、疾患があっても周囲のサポート体制を整えば出産や育児に問題はないということをお話くださいました。

以下の『子育てひろばにおける親のエンパワメントの発達段階』のとおり、まずは親が「ここは私の居場所！」と安心することで積極的利用につながり、徐々にひろば独自の機能である“仲間づくり”につなげていくことで初めて自信回復や主体的な参加、やがては地域につながっていくということです。



ディスカッションでは、ひろばでカッとなり子どもに暴力を奮ってしまった母親に対するの対応を話し合いました。杉山先生より、スタッフはその場で直ぐに他の利用者を巻き込み、本人も交えて話合いの機会を持つこと、他人事ではなく皆が同じ母親としてその母親の行動を非難せずに気持ちを聴くこと、そしてできるだけ全員で思いを語り合うことが大切であり、話合いをきっかけに皆がその母親のことを理解して一歩手前で声をかけるようになる等の効果につながることを伺いました。それは本人のためだけでなく、ひろばのために必要なことであり、このひろばは利用者同士がお互いに支えあう場であることを皆で認識することが大切というお話に、参加者一同深い学びを得ました。

最後に、コーディネーターの山田さんより、「心の問題を抱えていてもいなくても、ひろばで求められる原則は同じであること、その人の行動ではなく“気持ちに寄り添う”ということがとても印象に残りました。今日のこの学びをさらにそれぞれのひろばで生かしていけるよう、お互いがんばっていきましょう。また、これからもこのような機会を持って一緒に学んでいきましょう。」という結びの言葉がありました。

<第4分科会>「民間と行政の新たな関係性づくり」(パネルディスカッション方式)

コーディネーター:大屋幸恵さん 武蔵大学 教授
パネリスト:濱田由美子さん 東京都福祉保健局少子社会対策部こども家庭支援課
市川厚夫さん 八王子市こども家庭部子どものしあわせ課
土屋真美子さん 日本女子大学 非常勤講師
小原聖子さん ゆったりーの運営委員会 代表

前半は、パネリストによる発表、後半は、52名の参加者から提出いただいた多数の質問用紙の中から、参加者に共通する興味深い質問を質疑応答形式でパネリストにお話を伺いながら、民間と行政の良好な関係性、対等な関係性づくりを模索するディスカッションが行われました。

濱田さん発表:東京の子どもと家庭の現状について配布データを基にお話しいただき、子育て支援施策など東京都の取り組みや、子育てひろば事業についても説明していただきました。

市川さん発表:八王子市の子育て・子育て支援の仕組みや、協働を進めていくための基本的原則やその姿勢などお話しいただきました。行政も民間も子育て環境を良くしたいという思いは一緒なので、上手に協働していくためのコミュニケーションのポイントなども伺いました。

土屋さん発表:現在、活動しているNPO 組織アクションポート横浜での取り組み「協働契約のあり方を考える会」の立場から、「協働」の現状と課題から委託契約の問題点などをお話しいただき、それらを解消するための提案などを伺いました。

小原さん発表:新宿区と区民の協働事業「ゆったりーの」の経緯についてお話しいただき、現場の運営からは連絡会の加入やスタッフ同士の相談・連携によって多くの問題を解決してきたこと、区の施設・機関との連携など、実績を作っていく大切さを伝えていただきました。

質疑応答

Q:行政とコミュニケーションをとるにはどうしたら良いか。

A(市川):意見を言わないと互いに伝わらない。意見を言っていく。そこが出発点となってお互いが歩み寄る。行政が聞く耳を持つまで訴え続けていく。議員を出すのは最後の手段に取っておく。

A(濱田):区市町村が自分の政策として上げてこないと都には届かない。区市町村に訴えていく。区長の考えは大きい。

Q:行政との良い関係づくりはどのようにすれば有効か? 担当者が変わっても上手くいく関係性づくりは?

A(濱田):役所に足を運ぶ、会議に参加するなど、顔がわかって普段どういうことを考えて、熱心にやっているかが伝わる事は大切。職員も何かあった時には声掛けをする。

A(市川):職員の移動によって、熱心に関わってくれた担当者が移動になる場合、課の中で他に前向きに関わってくれそうな人をリサーチして繋いでいく。

Q:熱心に活動していくとお互いに思いが強く、意見が平行線になって歩み寄りが出来ない。どうしたらよいか?

A(小原):団体内部では意見は違って当然と思っている。交通整理のような感じで上手くいっている。

行政とは、喧嘩したら始まらないなと思ってブレーキをかけている。喧嘩しても歩み寄る事もした。別の課にアクセスする事も有効。

A(土屋):行政と民間と1対1で協働をやっていくと必ずぶつかるので第三者機関が必要。後は目指すところは何か立ち返る。自分たちで稼ぐ意識もNPOに必要。

Q:協働して働ける人が減ってきて、会の存続が危うくなっている。何か良い方法は?

A(小原):スタッフや運営委員は減ることはあっても増えてはいかない。今までのやり方にこだわっていると人は増えない。自分たちも発想の転換をしていく事が今も課題。

A(土屋):違う主体がどういう風に手を繋げるのか。どうやって歩み寄っていくか。バランス良くしていくのが理想だが、その場に合わせて考えていく。

協働・連携の為のより良い関係性づくりについて、具体的で解りやすい意見を伺う事ができ、参加者それぞれの支援活動にとって有意義な分科会となりました。



コーディネーター 大屋幸恵さん



濱田由美子さん



市川厚夫さん



土屋真美子さん



小原聖子さん

<第5分科会>「聞く、話す、自分を知る」

講師:佐々木政人さん 愛知淑徳大学 教授

コーディネーター:松田妙子さん NPO 法人せたがや子育てネット 代表理事

最初にカウンセリングの基本的な技法の中の4つのポイントについてお話いただきました。

①アテンディング・ビヘイバー

クライアント(サービス利用者)の話に耳を傾けるソーシャルワーカーの態度に関する技術

②話し合いのオープンな誘い方

クライアントが自分の言いたいことや気持ち、感情を自由に話せるようにソーシャルワーカーが質問したりコメントしたりする技法

③感情の反射

ソーシャルワーカーがクライアントのもとにある情緒的な面や感情について応じていく技術

④要約

クライアントの話の内容とそこにこめられた感情をソーシャルワーカーの言葉でわかり易くまとめてクライアントに伝える技術

この4つのポイントをふまえた上で、ここからワークショップによる「人生絵本の協働作業を通して自己を振り返る」の作業に入っていました。



写真左
佐々木政人さん



写真右上
松田妙子さん

いくつかのグループでクライアント(話し手)、ソーシャルワーカー(聞き手)、観察する人を決め、対象者の話を引き出します。その後、話し手以外のメンバーでそれぞれ印象に残った場面を振り返りながらストーリーの検討をし、一人一場面の原画の作成、原画に言葉やストーリーを入れていきました。

そして出来上がった絵本をみんなの前で発表しました。

人生絵本のモデルとなった本人による最後の発表には「絵本にされるとはうれしいなあ」「いろんな人に励まされてがんばれたんだと改めて感じた」「これからもっとがんばれそうだ」など、絵本の感想や自己の人生の振り返りがありました。終始和やかで楽しい雰囲気の中、ひろばスタッフの立場として利用者のお話を「聞く」、利用者「話す」技術が実践につながっていくものとなりました。

<第6分科会>「障害のある子どもと親へのかかわり」

講師: 渡辺 顕一郎さん 日本福祉大学 教授

事例発表者: 池本 泰子さん NPO 法人保育サービスぽてと 代表

事例発表者: 草薙 めぐみさん NPO 法人子育てネットくすくす 理事長

障害のある(あるいはその可能性がある)子どもと親の「育ち」を、いわゆる「気になる段階」から地域で支えることは、重要です。そのため、地域でつながる、つなぐという子育て支援拠点の働きに着目しながら、支援のあり方を考えていきました。

前半は、渡辺先生による障害のあるお子さんはどれくらいいるのか、どんな困難を抱えながら生活しているのかなどの説明がありました。心身の障害や最近、認知されてきた、「発達障害」といわれる自閉症(スペクトラム)、アスペルガー症候群、注意欠陥多動障害、学習障害などを含めると約8%のお子さんが、潜在的に障害を抱えているそうです。しかし、発達支援サービスは、全国的に不足しており、子育て支援の場における「子どもの発達支援」が、今、必要でたいへん期待されていることを、知りました。

最初の事例発表は池本さんです。練馬区で、発達障害の幼児を対象にした親子の広場「LOVEピース club」の活動をされている実践報告でした。通常のひろばでは、仲間に入るのが苦手、ゆっくりお話を聞いて欲しい、など不安を持った少し心配な親子も安心して、来てもらえるようにと、作ったのだと話されました。「LOVE ピース club」でまず居場所を見つけて、そして、「LOVEピース club」を卒業して、通常のひろばを楽しめるようになった親子もいたと素敵な報告もありました。

次の発表は、草薙さんによる香川県善通寺市の子育て支援についての事例報告でした。善通寺市の「子育て広場くすくす」「子夢の家」「児童デイサービスすまいる」など各支援施設では、さまざまな行事、イベントを行い地域のいろいろな世代のいろいろな方と、一緒に楽しみながら、交流を図っているそうです。間口を広げて、いろんな人がいて当たり前と考える。それにより障害を持った方のハードルを低くしてひろばに参加しやすくなれば話されました。

最後の時間は、質疑応答になりました。「今、私たちがいるひろばで、何ができるのか」といった質問が多く挙がりました。少々時間が、過ぎてしまいましたが、きっと参加者の皆さんは、有意義な時間を、過ごせたのではないのでしょうか。それぞれの皆さんが、ひろばに持ち帰りスタッフと共有していただけたらと思います。



講師：渡辺顕一郎さん



発表者：池本泰子さん



発表者：草薨めぐみさん

オプション・プログラム 11月21日(土) 「ひろば視察会」

<視察受け入れ「ひろば」>

| No. | ひろば名 | 参加人員 | No. | ひろば名 | 参加人員 |
|-----|-----------------|------|-----|------------|------|
| ① | おでかけひろば@あみーご | 4 | ④ | 0123 吉祥寺 | 15 |
| ② | おでかけひろばテットーひろば | 13 | ⑤ | 練馬区光が丘ぴよぴよ | 11 |
| ③ | こどもテンミリオンハウスあおば | 3 | ⑥ | 練馬区関ぴよぴよ | 8 |

視察会への参加で、新しい気付きや発見があったと思います。

参加者同士のディスカッションも深まったようでした。

研修を終えて：初めての中堅研修(拠点のリーダー・責任者及び3年以上の経験者)ということもあって、テーマの「見つめなおそう！地域の子育て支援拠点となるために～今、リーダーに求められる力～」がどこまで、受講者の研修意欲をかきたて、また、それに答えることができたでしょうか。これまで、各地域で開かれてきた立ち上げ支援研修やネットワーク形成の研修に何回も参加して下さった方たちにとって、更なる研修を望む声も多く聞かれていましたが、もう一歩踏み込んだ考え方やひろば運営における悩みや疑問も全国の仲間と共に分かち合うことができたでしょうか。悩みを共有し、解決力の習得のきっかけになったならば、幸いです。ひろばに来る方たちと同様に、私たちスタッフたちも、全国の仲間とつながり、地域に、より良い情報を持ち帰り、各地域に見合った望ましい子育て支援拠点作りをめざしていただけたらと思います。